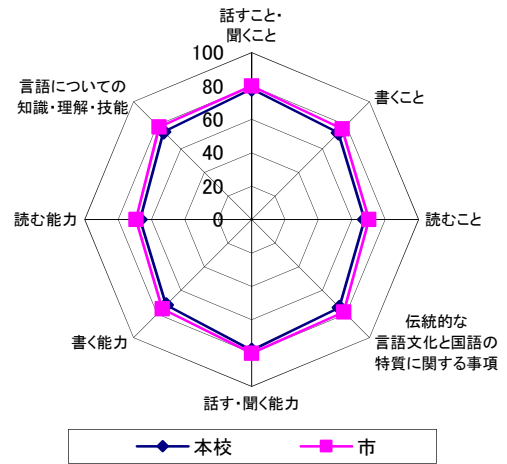


宇都宮市立清原中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	78.3	80.1	77.9
	書くこと	73.6	76.8	65.3
	読むこと	67.7	70.3	66.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	74.4	78.3	74.3
観点別	話す・聞く能力	78.3	80.1	77.9
	書く能力	72.2	75.6	64.2
	読む能力	66.8	69.2	65.4
	言語についての知識・理解・技能	74.4	78.4	73.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

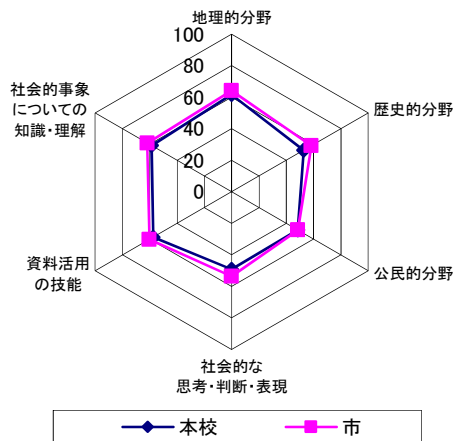
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○「意見の述べ方の共通する点を聞き取る」問題に関する正答率は、本校92.1%、市89.1%であり、3ポイント上回っていた。 ●「自分の考えを述べる」問題は1.8ポイント市の正答率を下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・「相手の述べていること」や「述べ方の共通点」を聞き取ることはできている。しかし、「自分の考えを述べる」ことに関しては、普段から苦手意識をもっている生徒が多いと感じる。今後は、ペア活動で相手に自分の考えを伝えられるよう、考えを述べる場面を授業のなかで多く取り入れる。
書くこと	○「資料を集めて発表原稿を書く」という項目に関しては、どの問題も市の正答率をわずかに下回るのみであるため、ほぼ同じ程度正答していると考えられる。 ●課題作文に関しては、3.2ポイント市の正答率を下回った。	・「資料を集めて書く」など、書くための材料が揃っていれば書くことができるが、一から自分の考えを書く力が十分ではない。今後は、自分の考えを表現する力を養うために、型を提示して、繰り返し型にはめて書く練習を行うことで、書き方のパターンを習得させる。
読むこと	○「文章の表現の特徴を捉える」問題の正答率は、本校75.3%、市75.6%であり、ほぼ同じ程度正答していると考えられる。 ●大問「説明的文章」については、どの問題も正答率が市よりも1ポイント以上下回った。	・文学的文章の表現の特徴や、登場人物の心情を読み取ることはできている。しかし、説明的文章となると、言葉の意味を理解しきれていないことがわかる。今後は、段落ごとに内容を細かく捉えることで、筆者の考えを正確に把握させ、読む力を養う。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○「中学校で習得した漢字」はやや正答率が下がるが、「小学校で習得した漢字」は全てにおいて市の正答率を上回った。 ●文法や語句に関する問題は、全体的に市の正答率を下回った。	・漢字は、普段から小テストなどを行うことで、繰り返し復習ができている。一方、文法や語句に関しては、単元のみ学習になりがちのため、定着が不十分だと考えられる。今後は、定着を図るために、定期的な復習を行う。

宇都宮市立清原中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	61.6	64.1	57.5
	歴史的分野	52.7	58.4	52.8
	公民的分野	48.3	48.5	40.7
観点別	社会的な思考・判断・表現	49.2	53.6	47.5
	資料活用の技能	57.5	60.3	53.3
	社会的事象についての知識・理解	58.7	61.8	55.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

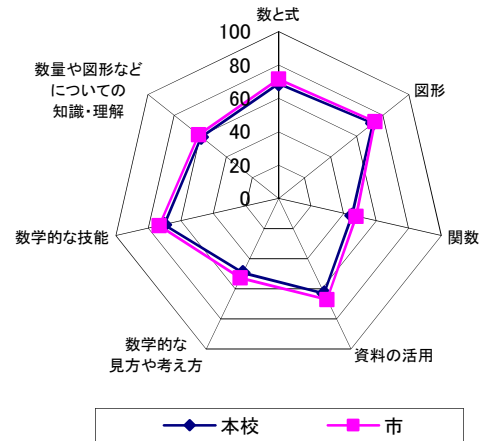
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	<p>○世界地図の読み取り問題における正答率が91%であり、市・全国ともに正答率が上回っている。その反面、世界地図の特色の把握に課題が見られる。</p> <p>●平均正答率は、市の平均よりも2.5ポイント低い。</p> <p>●日本の工業生産の変化についての資料分析問題では、正答率が市平均を下回っている。</p>	<p>・歴史的分野に比べると、複数の資料活用は困難ではないようであるが、引き続き資料の活用や分析、まとめなどを丁寧に行っていく。また、生産の変化などの資料を読み取る力をのばすため、効果的な資料の精選や、複数の資料を比較して考える授業の工夫を行う。</p>
歴史的分野	<p>○江戸時代の設問の正答率が7割を超えており、全国正答率を上回っている。特に、鎖国への歩みや江戸幕府による大名統制について理解している生徒が多い。</p> <p>●平均正答率は、市の平均よりも5.7ポイント低い。</p> <p>●歴史的分野における、複数資料の活用問題に課題が見られる。特に奈良時代から平安時代にかけての正答率が低い。</p>	<p>・資料活用の力を高めるために、普段の授業から資料の見方のポイントを丁寧に指導していく。また、複数の資料を応用する力を高めるために、グループ学習に取り組む。正しい情報がどうかを判断することや、読み取りのコツに気が付くことなど、グループで共有することで応用できる力を養う。</p>
公民的分野	<p>○日本国憲法が国の最高法規であることを理解している生徒の割合が、市の平均より10.8ポイント高い。憲法について基礎的な知識を丁寧に取り扱っている成果であると考えられる。</p> <p>●平均正答率は、市の平均よりも0.2ポイント低い。</p> <p>●新しい人権についての理解はあるようだが、認められるようになったその背景について説明することなど、物事の背景をよく理解して説明することに課題が見られる。</p>	<p>・公民的分野においては、課題をどう解決していけばよいか自ら考える力を養うために、正しい知識を身に付けると同時に、グループでの話し合いや異なる意見の共有などを通して、正しく判断したり表現したりする取組を行う。</p> <p>・学習内容と時事問題をリンクさせながら、日本だけではなく世界に興味・関心をもって生活できるようにする。</p>

宇都宮市立清原中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	68.9	71.5	66.8
	図形	72.3	73.8	70.4
	関数	45.2	47.8	41.6
	資料の活用	63.0	67.1	61.4
観点別	数学的な見方や考え方	49.3	52.8	45.8
	数学的な技能	70.2	73.3	68.1
	数量や図形などについての知識・理解	59.2	61.2	57.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

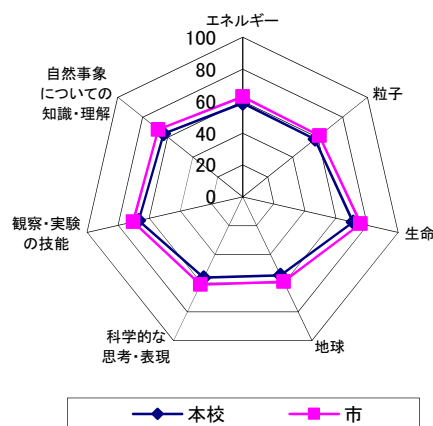
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○基本的な計算である累乗を含む正負の計算や乗法公式を使った計算、連立方程式の計算の校内正答率は、80%を超えてよく理解している。 ●やや複雑な2次方程式の計算の校内正答率は47.3%で、この領域で一番低い正答率である。計算過程の理解に課題が見られる。	・数の分類の理解が不十分のため、抽象化された文字や数の計算に抵抗感が見られる。抽象化された文字や数の計算力を育てるために、言葉を添えた計算過程を説明しながら、与えられた文字や数についての確認をする。
図形	○証明に必要な三角形の相似条件を選ぶ問題の校内正答率は、80%を超えて市の正答率より8.6%高い。 ●n角形の外角の和の性質や証明の必要性についての問題の校内正答率は、50%前後で低い。図形の性質や定義・定理の理解に課題が見られる。	・基本的な内容については理解している。公式や定義・定理を利用した技能や表現力を育てるために、簡単な計算練習や証明問題を反復練習して理解を深めさせる。
関数	○関数の意味や1次関数の式やグラフの特徴についての問題の校内正答率は、市の正答率よりやや高い。 ●1次関数のグラフを利用した問題の校内正答率は、29.9%で低い。グラフの特徴を考えて説明の仕方に課題が見られる。	・式やグラフの特徴をとらえて説明する力を育てるために、道のりや水の温度など身の回りにある問題を考えさせ、各グループでその特徴を話し合い、発表させる。
資料の活用	○確率を求める問題の校内正答率は、市の正答率とほぼ同じである。 ●来場者数から18歳以上の割合を求める問題の校内正答率は、市の正答率より9.6ポイント低い。適切に資料を読み取る方法に課題が見られる。	・この領域では、平均値、中央値、最頻値などいろいろな値を求める問題が多い。適切な値を求める判断力を育てるために、需要用語の意味(定義)をよく理解させ、正確な値が求められるように練習する。

宇都宮市立清原中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	58.7	62.7	57.6
	粒子	57.9	61.5	57.7
	生命	70.9	75.8	72.1
	地球	54.5	59.0	45.0
観点別	科学的な思考・表現	56.2	61.0	54.8
	観察・実験の技能	66.8	70.4	64.1
	自然事象についての知識・理解	63.4	67.6	62.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

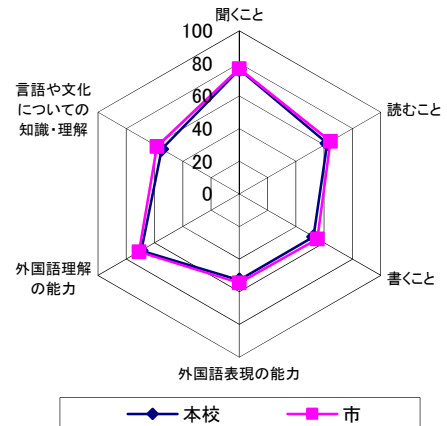
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○流れる電流の大きさが、予想できないときになが電流計の端子を指摘する問題の正答率が高かった。 ●弦をはじく強さを強くしたときのオシロスコープの波形について答える。記録タイマーのテープの長さから、そのテープが記録されたときの台車の平均の速さを求める。斜面の角度を小さくすると、台車の速さのふえ方がどうなるか答える問題の正答率が低かった。	・電流計や電圧計のつなぎ方を正しく理解しているので、引き続き丁寧に指導する。 ・実験結果から法則を見つけることが苦手な生徒が多い。考察力を育てるため、レポートに自分の考えを書かせるようにする。
粒子	○メスシリンダーを使って物質の体積を測る問題の正答率が高かった。 ●鉄の見分け方を考える。誤った化学反応式を書き直す問題の正答率が低かった。	・メスシリンダーや電子天秤の正しい使い方を理解しているので、引き続き丁寧に指導する。 ・化学反応式を正しく書けない生徒が多い。丸暗記では無く、化学反応式を作る力を育てるために、分子モデル等を使って化学変化をイメージしやすくする。
生命	○無性生殖の特徴を答える問題の正答率が高かった。 ●シダ植物の体のつくり、ヤモリとイモリを分類する、卵、精子、体細胞の染色体数について答える問題の正答率が低かった。	・無性生殖の特徴を正しく理解しているので、引き続き丁寧に指導する。 ・植物や動物の分類が苦手な生徒が多い。体の特徴で正しく生物を分類できる力を育てるために、なるべく実物に触れさせることで生徒が特徴を正しく理解し、分類できるようにする。
地球	○停滞前線をつくる気団について答える問題の正答率が高かった。 ●石灰岩の層を見分ける方法を答える。天気図から、どの季節かを指摘でき、そのように判断した理由を説明する問題の正答率低かった。	・季節によってどんな気団が発達するか、正しく理解しているので引き続き丁寧に指導する。 ・季節によって天気図にどのような特徴があるか理解していない生徒が多い。気象庁の実際のデータから等圧線を引く実習を行い、天気図の特徴を読み取る力や説明する力を育てる。

宇都宮市立清原中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	76.3	76.8	73.1
	読むこと	62.1	64.5	59.9
	書くこと	52.5	55.3	59.7
観点別	外国語表現の能力	52.8	54.5	59.0
	外国語理解の能力	69.5	70.9	65.9
	言語や文化についての知識・理解	54.9	58.2	60.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
 (英語では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>○対話の内容を聞き取り、適切に回答する(どこへ行くのかとたずねられて)ことは、市より2.3ポイント上回っている。</p> <p>○英文の要点を聞き取り、適切な回答をすることにおいては市の平均を上回る問題もあった。</p> <p>●英文の要点を聞き取る(内容と合っているもの)、で市の平均を2.7ポイント下回り、対話文の回答にやや難がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業中の指示や説明もできるだけ英語を使って行うなど、教師が英語を話す場面を増やす。またALTの活用の仕方を工夫して、生徒がネイティブの英語を聞く機会を増やし、英語に慣れさせる。 相手からの質問にその場に応じた返答例をより多く示し、様々な場面での反応の仕方を身に付けさせる。
読むこと	<p>○長文の読み取りのうち語形・語法を理解する(疑問詞+to不定詞)点で市平均を2.3ポイント上回ることができた。</p> <p>●ブログの内容を把握するポイントが、6.1ポイント市平均を下回っている。</p> <p>●説明の内容と資料の情報・条件をもとに、適切なものを選ぶことが市平均を5.74ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 文法的事項の理解を深めさせる。 できるだけ多くの英文に接する機会を増やす。 会話文では、状況や場面を意識して読む習慣をつける。 重文や複文に対しての使い方の反復練習を増やす。
書くこと	<p>○一番好きな季節について、好きな理由や説明を含め、まとまった5文以上の英文を書くことは市の平均を上回っているが差は小さい。</p> <p>●単語を正しく書く問題(くもりの)の正答率が市の平均を11.6ポイント下回っているものがある。</p> <p>●与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書くことの定着が悪いことが分かった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 基本文の反復練習をする。 自己表現活動を多く取り入れる。 家庭学習の習慣を定着させる。 自分の考えや意見を作文するような場面を設定し、3文から5文でまとまりのある作文となるよう、文の構造についてさらに学習を深める。

宇都宮市立清原中学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
話し合い活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○話し合い活動を生かせる場面、方法、期待できる効果などを全教職員で共通理解し、教科ごとに授業での活用場面を話し合う。 ○校内研修などで、効果のあった話し合い活動について、全教職員に周知する。 	3年生は、「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」についての肯定回答率が84.8%で市の平均を1.5ポイント上回った。しかし、「自分の考えを、根拠をあげながら話すことができる」については市の平均を0.7ポイント下回った。
「書く」活動の工夫・充実	<ul style="list-style-type: none"> ○定期テスト等で、書かせる問題を増やし、普段の授業でも書かせる機会を多く取り入れる。 ○授業の中で分かったことなどや振り返りを、言葉で書かせ、他の人に向けて説明させる。 	・「表現」に関わる問題の校内正答率は、国語の「書く力」は市を1.8ポイント、英語の「外国語表現の能力」については1.7ポイント下回った。また、「思考・表現」でも、社会では4.4ポイント、理科では4.8ポイントそれぞれ下まわった。
家庭学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○自主学習ノートを全学年共通で行い、毎朝提出状況をチェックする。未提出の生徒には担任から声かけをし、継続して学習していけるよう励ます。 ○自主学習ノートのやり方として見本となるようなものを全校生徒に示す。 	・「宿題はきちんとやり、期限までに提出している。」に肯定回答をしている生徒の割合は全学年で80%以上だが、自ら取り組む態度に関わる「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる。」は1年で64%、2年で55%、3年で67%にとどまっている。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・市の調査で「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」生徒の割合は8割を超えた。学校全体で「話し合い活動」を取り入れた授業を推進した結果と言える。しかし、「自分の考えを、根拠をあげながら話すことができる」生徒の割合は6～7割の生徒にとどまっている。次年度は、自分の意見をノートに書く時間をしっかり確保してから「話し合い活動」を行うように学校全体で取り組んでいく。
- ・県の調査で授業で扱うノートには、「学習の目標とまとめを書いている」「授業の最後に、学習したことを振り返る活動を良く行っている。」と答えた生徒の割合が県の平均を大きく下回った。全職員が「目標」と「まとめ」を板書するとともに、授業の中で分かったことを言葉で書かせ、他の人に向けて説明させる「振り返り」の機会を増やす。
- ・国・県・市の調査で、「その日のうちに復習している」に肯定回答した生徒は全学年で市の平均を超えた。学校全体で自主学習への呼びかけを行った結果と思われる。しかし、自ら取り組む態度に関わる項目では、2年生は60%に達していない。次年度は、「きよはら学習ガイド」や、自主学習ノートを用いて、学習の仕方を丁寧に指導する。